

議 事 概 要	
会議の名称	令和 8 年度第 1 回長久手市地域保健対策推進協議会
開催日時	令和 8 年 8 月 6 日（木）午後 2 時から午後 3 時 2 5 分まで
開催場所	長久手市保健センター 3 階会議室
出席者氏名 （敬称略）	委員 加藤 潤司 川本 さつき 川本 玲美 駒村 和廣 片岡 英里奈 横山 智絵子 古橋 完美 鈴木 孝太 浅井 まゆこ 中原 亜希子 事務局 福祉部長、健康推進課長、同課成人保健係長、同課健康推進係長、同課健康 推進係専門員 子ども部長、子ども家庭課長、同課母子保健係長、同課母子保健係主任
欠席者氏名 （敬称略）	横井 英臣 堀場 哲明
会議の公開・非公開	公開
傍聴者人数	1 人
審議の概要	保健事業報告について (1) 健康づくり事業 (2) 成人保健事業 (3) 母子保健事業 (4) 予防接種事業
問合先	長久手市福祉部健康推進課 電話 0561-63-3300
備考	
議 事 録	
1 挨拶 福祉部長より 2 自己紹介、委嘱状机上交付 3 会長・副会長の選任 互選により鈴木孝太委員を会長に、川本さつき委員を副会長に選任 鈴木会長挨拶	

4 議題

(1) 健康づくり事業について

事務局説明

資料1、資料2に基づいて説明

質疑応答・意見等

委員 歩行測定会や公立陶生病院の公開講座について、参加人数は見込んでいたとおりの人数であったか。また、参加してほしい人に来てもらえているか。

事務局 歩行測定会については、本来は40～50代の人に参加してもらい、将来的なフレイル予防として対策していきたいと考え、日曜日の開催とした。若い人の申込みを期待したが、結果としては70～90代の方が多かった。このような事業の場合、高齢者の参加が多くなりがちである。

参加人数については、歩行測定会は1時間で5名の枠を設けて事前予約制としたが、定員の20名の参加があった。

わざわざ予約して来られる方は、みなさん歩くことに関心が高く、元気な方が多い印象がある。本当は意識があまり高くない人にも来ていただき、意識をもってもらいたいが、なかなか難しいところである。

公立陶生病院の公開講座については参加人数が51名。このような講座の場合、女性の方の参加が多いが、今回の陶生病院の市民講座は、比較的男性の方の参加も多かった。

委員 長久手高校のこころの健康教育で、生徒の反応やアンケートは実施したのか。今後継続していく予定なのか。

事務局 今年度初めて実施した事業で全校生徒が対象であり、事前に校内で生活に関するアンケートを実施していたため、生徒への事業後アンケートは実施していない。

暑い体育館での実施であったが、生徒達は集中して話をきいてくれていた。講座の前に高校の養護教諭と情報交換をしたが、今は困った時に、「困った」と言うことを苦手としている生徒が多いとのことであった。この講座の中で、困った時に助けを求めているということも伝えてほしいという要望があったため、そういう内容も取り入れた。

今後は、学校とも振り返りを行い、学生や若者との接点を持つためにこのような事業を継続していきたいと思う。

(2) 成人保健事業について

事務局説明

スライドに基づいて説明

質疑応答・意見等

委員 がん検診の受診率1と受診率2の違いはなにか。

事務局 職場などで健診等の受診機会がある方については、本市で健診を受けることはないが、そういった方も含む市民全体を分母とした受診率が受診率1で、職場での健診等の受診機会のある方を除外し、本市で受診する対象者と考えられる人を分母にした受診率が受診率2になる。

委員 簡単に言うと受診率1については、まず100%になることはないが、受診率2についてはなるかもしれないということでしょうか。

事務局 はい。受診率2については国の示す60%以上を目指したい。

委員 がん検診で市に予約しなくてよくなったことによる現時点での影響は何かあるか。

事務局 今年度からは、印字した受診券を送付したので、変更の初年度のため、受診券を持たずに医療機関を受診する人が続出した。また、紛失してしまい、再発行を申請する人も、結構多い状況である。医療機関で受ける場合には受診券が必要であるというご案内を丁寧に行っている。

保健センターで健診を受ける場合は、これとは別の受診票が届くので、受診票とは違うタイミングで届いた受診券も持って来ることを浸透させるのはなかなか難しい。皆様に認識していただけるよう、丁寧に案内を行っている

委員 受診しづらくなっているわけではないか。

事務局 そのようなご意見は受けておらず、受診しづらくなったとは考えていない。

(3) 母子保健事業について

事務局説明

スライドに基づいて説明

質疑応答・意見等

委員 こどもの発達相談室は、子ども家庭センター内の相談室ということでよいのか。

事務局 こどもの発達相談室は、子ども家庭センターには含まれない。子ども家庭課には母子保健係、虐待などを担当する家庭係、療育を担当する療育支援係の3係があり、こどもの発達相談室は療育支援係が担当している。

委員 産前産後ケア事業として、さまざまな事業を実施しているようだが、妊婦さんになれば知ることになるが、これからお子さんが欲しいという方に対しても周知をしているのか。

例えば、婚姻届を提出しに来たときなど、妊婦になる前に、お知らせする機会はあるのか。

事務局 今のところ行っていない。

委員 結婚してからお子さんが欲しくても経済的な状況でなかなか考えられない方や、あるいは2人目は経済的に考えて難しいと思われる方もいるかも知れない。

せっかくこのようなさまざまな事業をやっているのであれば、若い世代に長久手ではこのような事業を行っていることを積極的に周知をしていくとよいのではないのか。

(4) 予防接種事業について

事務局説明

スライドに基づいて説明

質疑応答・意見等

委員 お子さんは、かなりの割合の方が予防接種を受けられていると思うが、やはり受けられない方も中にはいると思う。そのような方への勧奨はどうしているのか。

事務局 夏休みや冬休みといった長期休暇の前に、接種されていない方を抽出して、個別に勧奨を行っている。また乳幼児健診の際に、親子健康手帳等で予防接種の接種状況を確認し、保健師から勧奨を行っている。保護者の意向で接種しない人もいるが、そのような方には、打たないことによるリスクや、打つことが出来る期限があるということも説明している。

委員 県としては結核対策を行っているのでお聞きしたいのだが、BCGの接種率はどうか。

事務局 市独自で出している３歳時点での接種率は約９７％である。

委員 愛知県結核対策プランというものがあり、BCG 接種率の目標値を９５％以上としているので９７％であれば問題ない。

５ その他

新型インフルエンザ等対策行動計画（案）概要版について

事務局説明

資料３に基づいて説明

質疑応答・意見等

なし

（午後３時２５分終了）